

## 「種山ヶ原はいま⑯」

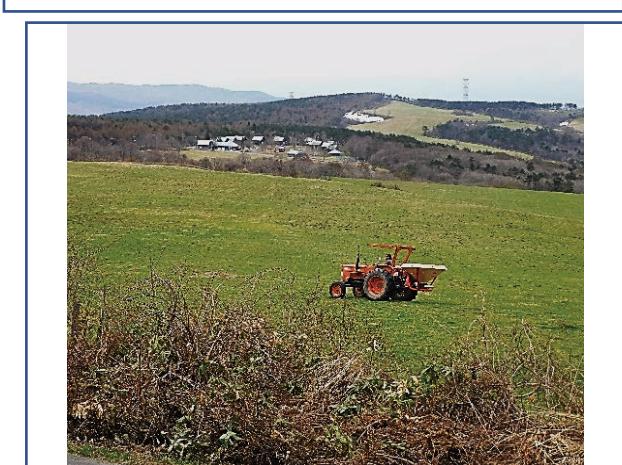
種山ヶ原は動き出しました！

4月20日 駐車場入口の舗装補修工事

千田強さんの指導で、千葉光紀さん、千田義一さん、山崎が作業。レミファルトが足りらず、十分ではありませんでしたが、しばらくは楽に出入りできると思います。お花畠までの雨で決壊した道路の一部も、(株)及修土木さんから提供していただいた碎石で補修を始めました。



遠くに奥羽山脈がきれいに見えてました。



種山ヶ原で牧草地の肥料散布が始まりました。  
牧草の刈り取りは見ていて楽しいです。是非  
見て欲しい今の種山ヶ原の風景です。

## 種山ヶ原の「カモシカ」(1)

天然記念物の「カモシカ」。種山ヶ原でも増えてきました。



賢治の森の「サブちゃん」 東屋が休憩所のようです。



今はトトロのよみがへる時代へとぎて農家レハハと凶めじこみフ。日本も野菜作りもやめた農家も多くなりました。日本鹿は狩猟できるのですが……。

## 「五輪峠」は南部と伊達の藩境です。今の五輪の塔は三代目か？



二代目は県道(現五輪街道)ができる前は峠にあり、丸い石が道路脇に転んでいて、どうして丸い石がここにあるのか不思議に思ったことを今も鮮明に覚えています。県道工事で今の所に移動されたのでしょうか。

初代は 350 年も前、峠の麓にある上大内沢の千葉日向が戦で亡くなった父・上野を弔うために建立したと言われています。

ここは南部と伊達の藩境で、幾度となく戦さがあり、正にロシア・ウクライナの昔版。

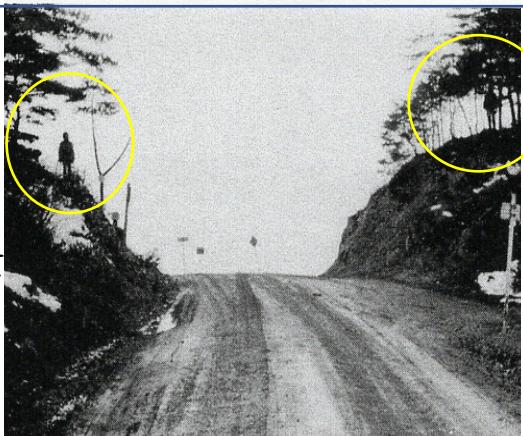
藩境塚ができたのも 350 年前ですが、先日米里文化財調査委員会で調査したところ、道路拡張等以外は殆どの塚に木が生えているものの残っていました。未開発と悲しむより、歴史遺産を大切にしてきた先人を讃えたい。

左図の五輪峠の藩境塚は黄色の円に人が立っている場所です。50 年前の写真です。

峠を下りると足軽 7 ~ 8 人で守る番所があり、越境や脱穀等の取締りが主な役目だったのでしょう。また、この峠が罪人の引き渡しの峠「人返し」でもあったようです。

この峠を西方 2 km には昭和 10 年代まで採鉱していた「大米金山」跡があります。当時の製錬所の様子を実際にみている地元の古老千田長志さんと調査委員高橋光朗さんに金山跡を案内していただいた。残念ながら坑口は土砂崩れで塞がっていました。石英や小さな水晶が光り、石垣が積まれ金山跡であったことが良く分かった。当時採鉱した鉱石を 1 km 程の製錬所まで鉄索で運んだという。次回は鉄索の跡を調査し、地図に記したい。また、「長者屋敷」の確認と金山との関りも探ってみたい。

<参加者 案内人千田長志・高橋光朗、  
安西忠昭、千田義一、菊池利則、山



崎

五輪峠と名づけしは

地輪水輪また火風

峠五つの故ならず



次は「南部伊達両藩藩境塚」について

## 「南部伊達藩両藩藩境塚」

金ヶ崎町の駒ヶ岳から釜石市の唐丹まで約 130 km、塚が約 120 基と奥羽山脈から太平洋まで連なる壮大な藩境塚です。地政学者の岩田孝三氏も「今にしてこんなに見事な藩境塚の列が長い距離にわたってつづいている所は、日本中どこにも見られない。」と。

藩境が南部伊達両藩によって構築されたのは 1590 年頃であり、古文書を見ると、藩を越えて畠を作ったり、木を伐採したり騒動が起こり、その都度両藩の話し合いが行われたようです。いわゆる御境争論です。幾度となく争いのあった所は 10m 間隔で塚を築いた場所もあり、落ち着くまでに 100 年もかかったようです。

かつて県教育委員会が 8 次にわたって調査し、調査結果をまとめていますが、50 年が経過しているので、次世代のために米里の部分を調査しようと今回取り組みました。

現段階 30%程度の調査ですが、道路工事等で半壊した塚もありますが、今尚ほとんど現状がきちんと残っていることに驚きました。初めて見る我々には当時の人達の苦労がわか



南部伊達両藩藩境塚：西は奥羽山脈の駒ヶ岳(金ヶ崎町)から太平洋の唐丹（釜石市）まで